

わが街 Watching



▲スライドを操作しながら市の歴史や文化を紹介する生徒

国際社会を生きるコミュニケーション力の育成

中学生英語スピーチコンテスト

10月30日、田川市民会館で「第3回福岡県中学生英語スピーチコンテスト田川市大会」が行われ、市内8校の代表生徒16人が出場しました。

この大会は、福岡県が主催する中学生英語スピーチコンテストの予選会として市が実施しています。生徒たちは、課題の部または自由の部を選んで1人3分間のスピーチに挑戦。発音や声量、アイコンタクトなどに気をつけて熱弁しました。発表後は、ALTなどの審査員が発表内容に関して英語で質問。これは、青山学院大学の木村松雄教授からの助言を受け、今回初めて取り入れたものです。生徒たちは注意深く質問を聞き、自分の考えや思いを英語で返答しました。

市長室から生放送

KBCラジオで特産品を紹介

10月15日、市役所の市長室で、KBCラジオ「P.A.O.~N」の生放送が行われました。

これは、KBCが放送する「ふるさとWish」のラジオ番組のひとつ。10月12日~18日の期間中は、田川市にスポットが当てられ、テレビとラジオで本市のさまざまな魅力が紹介されました。

市長室からの生放送は昨年につき2回目。お笑いタレントのギター侍・波田陽区さんと二場公人市長が1年ぶりに再開しました。今回は「パプリカピクルス」や「甘酒」「チロルチョコレート」「いかの塩辛」などの特産品を味わいながら、二場市長と一緒に特産品をPRしました。



▲ギターを弾きながら鋭い「斬り」を披露する波田陽区さん

災害を知る、災害に備える

奈良区避難訓練

11月8日、奈良区で、大雨を想定した避難訓練が行われ、地域住民や消防団など約140人が参加しました。

この日は、防災行政無線で訓練開始を呼びかけて避難がスタート。住民は、避難所である弓削田中学校まで危険な場所を確認しながら移動しました。避難所では、区の役員などが受付や炊き出しを行い、避難者は協力して段ボールベッドを組み立てるなど、災害時の共助の大切さを学びました。さらに、市職員が同区に潜む災害の危険性を説明。早めの避難を訴えました。二場浩隆区長は「3年前の豪雨で被災した東峰村の関係者から、避難訓練を行っていた地区では犠牲者が出なかったと学んだ。今後も訓練を続けたい」と話しました。



▲段ボールベッドを組み立て、寝心地を試す参加者たち

学校給食への食材提供に感謝

猪位金学園で食育の特別授業を実施

コロナ禍が続く現在、国や福岡県から支援を受けた各産業が、福岡県産の食材を給食材料として無償で提供しています。福岡県産和牛等学校給食利用推進協議会から牛肉などの提供を受けた猪位金学園では、子どもたちが生産者と交流し、感謝を伝える催しを企画。10月29日に「と〜(10)っても美味しいお肉(29)の日」と題した特別授業を実施しました。

この日は、肉のもりもと牧場(飯塚市)を経営する森本義彦さんが来校。6年生の児童に、牛の種類や食肉になるまでの過程などを紹介しました。また、子どもたちはタブレット端末を使って牛の登録番号を検索。当日の献立にある「シシリアンライス」に使われる牛肉の産地を調べて学びました。



▲子どもたちと一緒に給食を楽しむ森本さん

地域の自主防災組織を強化

地域防災リーダー養成講座を実施

災害時には、自助・共助が大きき力になります。市では、地域の自主防災組織の活性化・人材育成を図るため、10月から「地域防災リーダー養成講座」を始めました。

これは、自主防災組織が防災学習会や訓練などを立案・実施し、災害時には的確に情報収集などができるよう、中心となる人材を育成することを目的とした講座です。安全安心まちづくり課の白出芳則消防防災専門員が講師となり、講義や実技などを通して受講者を指導しています。

現在、自主防災組織の中心を担う18人の市民が、地域防災リーダーの役割や、情報収集と伝達の仕組みづくり、高齢者の避難支援などを学んでいます。



▲田川市災害対応ガイドブックの活用方法を学ぶ受講者

人権コラム: Vol.14

問い合わせ

人権・同和对策課 (☎85-7133)

人権・同和对策課
Facebookページ



感染に対する不安や恐怖の要因は何か

2021年、新しい年が始まりました。昨年は、新型コロナウイルスが猛威をふるい、現在も感染拡大が続いています。いつまで続くかわからない状況で、多くの方が不安やストレスを抱えています。このような日々の中で「病気になりたくない」という思いだけではない、感染に対する不安や恐怖を感じたことはありませんか。では、その背景にあるものは何なのでしょう。

人は、目に見えないものへの不安を、目に見えるものにより替えて遠ざけることで解消しようとする。あなたは、感染した人への誹謗中傷や噂話、差別や偏見の眼差しを感じたことはありませんか。それこそが、不安や恐怖を大きくする要因の1つなのです。

どんなに注意をしても、感染のリスクが私たちみんなにあります。今、私たちにできることは、感染した人を誹謗中傷することではなく、感染症を正しく理解し、手洗いや人混みを避けるなどの感染予防対策を続けることです。お互いに支えあいの心を持ち、みんなでこの苦境を乗り越えましょう。